

11/22 読

筑波新大学 準備スタート

調査会開く

筑波の新構想大衆の熱意をうける文部省の筑波新大学設置準備調査会は二十一日午後、東京・蔵書閣の国立教育会館で開かれ、筑波新大学の準備を正式にスタートした。栗田昌東東京文芸学院理事長、小坂新一郎東京文芸学院理事、村英二東洋大学長、吉村睦雄主教授、福田信之東京教育大学教授、村山文部省大学審判局長、岩間官制局長が出席、栗田氏を議長に選んだ。

筑波新大学 調査会が初会合

筑波新大学の青年育つくりのため、文部省に設けられた調査会が、準備調査会としての初会合が、二十一日午後、同省で開かれた。

この機会は学務経験者十一人、文部省側五人で、さる十五日設置され、この日は全員が出席、理事長に東京家政学院理事長の柴沼直氏を選出した。このあと文部省側から、筑波学務部市と同都市に専任が予定されている東京教育大学について歴史や経過を説明、資料として東大の「新大学」マスタートプラン、世界の新構想大学の例などを配布したが、実質的な討論は次回(十一月六日)以降に持ち越されることになった。

初会合で座長に柴沼氏選出

筑波新大学調査会

文部省の筑波新大学設置準備調査会が、二十一日東京・蔵書閣の国立教育会館で第一回会合を開き、座長に栗田昌東東京文芸学院理事長(元東京教育大学長)を選出した。

この日はまず、文部省事務次官が「大衆熱意の調査」となる上

11/21 日

る筑波新大学の機軸を、広い視野に立って、しかも中央教育審議会の改革審議りの方向をにらみ合わせながらまとめてほしい。東京教育大学の専任にもなる新大学づくりだが、かならずしも教育大の側面にとらわれる必要はない」とあいさつ。このあと、文部省側から、筑波研究学園都市の経過、東京教育大の成立、紛争などについて説明があった。

また福田信之委員(東大教授)は古くは筑波を求め「教育大の専任改革審議り、一般に教育の役割を伝えられているのは調査会で、反対派は全教の四分の一以下に過ぎない」と説明した。

今後のめざるところは、第一回準備会を開き、自分の関心する大学の青年育つくりについて意見を述べ、次回は十七日、

筑波新大学準備会が初会合

筑波研究学園都市に建設する新

構想大学のあり方を研究する筑波新大学設置準備調査会は、二十一日午前十時から東京・蔵書閣の国立教育会館で初会合を開いた。会合には文部省側から村山大学学術局長、岩間官制局長、都外協力者として福田信之東京教育大学教授、柴沼直東京家政学院理事長ら十一人が出席、座長に栗田氏を選出した。

準備調査会としては単なる東京教育大の専任ではなく、あくまで時代の進展に即応した新大学の設置という点から検討を進めていく方針。

東大、めっきりタテカンぶり

「歌と踊りに限る」

大学祭を規制 タテカンも

評議会決定

東京教育大学(富島電機学長代行)は廿日、評議会を開き、六日に行なわれる大学祭は、歌と踊りに限る一との強い規制方針を決め、学生に通告した。紛争校もこの秋は行われる大学祭を開き、紛争のキズをいやしているところが多いが、このように大学側が政治色抜きを強めたのは珍しい。

この日の評議会は、紛争後初めて、学内の機軸を抜きで開かれ、大学法タイムリミットを控え、正常化、ぶりを示した。このほかにも学生処分やタテカンの立寄規制を定めるなど、タテカン規制はエスカレート。移動問題で対立している文部省側には「移動問題審議の際は退席してくれ」と強硬した。

教育大の大学祭は例年五月末に「歌と踊り」に限る一との強い規制方針を決め、学生に通告した。紛争校もこの秋は行われる大学祭を開き、紛争のキズをいやしているところが多いが、このように大学側が政治色抜きを強めたのは珍しい。

この日の評議会は「大学側が一部補助金を出す申し、大学側判的なのも体制判的なのがあるのはおかしい。調査会もそのなかに限るべき」と、シンポジウムや政治的、批判的な展示は禁止するとも定めた。もし学生が進行した場合は機軸を撤回してやるべきであるという。

最後は早稲田、法政、慶応など都内の各大学で月曜夜やシブヤン舞の大学祭が開かれているが、早稲田祭のサブタイトル「闘う大学祭」をはじめ、いずれも大学紛争テーマとしたものが目立っており、いわばそれが大学祭の常識となっている。

また同日の評議会で、タテカンについて、田村出典をほめる場所、大きさをいって規制することを含めたほか、紛争から学生処分第二弾として理学部一人、体育学部入の三人を無期停学とするところも、執行は各教授会に一任する、という高姿勢ぶりだった。

12/6 毎日